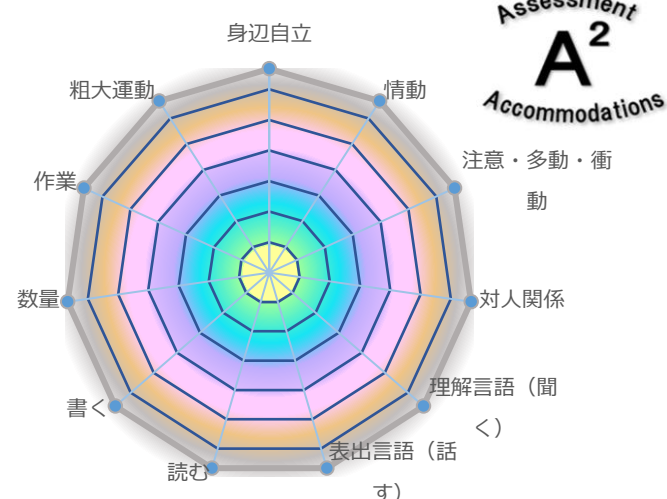


特別支援学校学習指導要領に基づく A²学習カリキュラム評価表



発達段階に基づく、学べる内容・学び方

学習指導要領より

段階の構成／発達のめやす

認知発達の特徴（学びの内容）

可能となる学び方

<p>卒業後を見据え主体的に学ぶ段階</p> <p>高等部 2段階 小学6年生程度</p> <p>高等部 1段階 小4～5年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友だちとの「助け合いと競い合い」 ・仲間集団として、大人からの自立を試みる ・集団への献身、スポーツマンシップ ・自分の可能性の意識化→自己認知・メタ認知 ・自分が直接経験したことのない事でも他者の気持ちや状況を想像して、理解・共感できる ・抽象思考ができるようになり、口頭説明や、文章のみでも理解・思考ができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像しながら学べる（抽象思考） ・ことばを使って論理思考ができる <p>〈発達障害生徒の実態〉 物事の本質や要点を理解できていないことも多く、個々に応じた確認が必要</p>
<p>9～10歳：抽象思考の始まり。この段階を超えると、一般的には学齢期では知的発達の遅れの診断範囲ではなくなるが多い</p>		
<p>目的に向かって主体的に学ぶ段階</p> <p>中学部 2段階 小学3年生程度</p> <p>中学部 1段階 小学2年生程度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自我の発達：社会的なモデルが必要 ・周囲の大人たちの対応をよく観察している ・友だちと協力的に、チームでの活動ができる ・集団の中で、自我の形成・社会適応を学ぶ ・平等を求める：“ルールは皆で守る”など ・目的に向かって主体的に動くことができる（支援学校では、この段階でも社会性の発達は小学部段階前半の生徒は多い） <p>知的発達の遅れ： ワーキングメモリーの課題に要配慮</p>	<p>具体的に見る・自分で経験・体験することが必要。 それを基に、ことばを使って考える</p> <p>〈知的・発達の課題のある生徒の実態〉 口頭説明の記憶や内容理解 ／頭の中での思考は難しい →体験／具体的操作／見える化の支援</p>
<p>場面や様子に自ら気づきながら、適宜の支援で主体的に学ぶ段階</p> <p>小学部 3段階 小学1年生程度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人をモデルにして価値観を育む ・他者理解が進み、子ども同士で円滑に遊ぶ（小学部3段階でも、社会性は小学部2段階以下の児童生徒が多い） ・状況に合わせて、自分の行動を適応させる ・お互いをあまり意識せずに友だちになれる 	<p>小学部段階 実際の体験・感覚と言葉をその場で結び付けながら概念を形成 (プリント学習で学べることが少ない)</p>
<p>ことばを添えたモデルを見て模倣するなど、支援を受けながら学ぶ段階</p> <p>小学部 2段階 3～5歳程度</p> <p>活動を通じて、日常会話がスムーズにできる言語能力や社会性の基礎を養う段階 基礎的な言語発達がなければ、小学部3段階以降の学習が使える力にならない</p>	<p>5歳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完全な文を使って、出来事を伝えられる ・目的に向かい、少人数で、特定の友だちとやり取りしながら協力して遊ぶ ・「良い・悪い」を理解し“罪悪感”を感じる ・自分と他人は見えているものが違うことがわかる（自分には表面でも、相手には裏） ・数の意味や、シンプルなルールを理解する ・他者と一緒にごっこ（ふり）遊びをする ・大人と一緒に特定の友だちと関わりを持つ ・気持ちの折り合いをつけることを学ぶ ・2～4語文で話す／200語程度まで語彙UP <p>3歳</p>	<p>具体的な体験・経験を基に学び 経験的パターンを基に行動する</p> <p>〈知的障害児童生徒の実態〉 ・学習経験により読み書き・計算が作業的にできるが、意味理解が伴いにくい →「体感—ことば」を結び付けて概念を形成していく学習が必要</p>
<p>より直接的な援助を受けながら体験し、学ぶ段階</p> <p>小学部 1段階 1～2歳程度</p> <p>・処理できる情報が限られており、自分が見た具体物や、その場での感覚世界が中心 ・他者と信頼関係を築く愛着の土台形成</p>	<p>2歳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色や形・大小の区別ができる ・大人を介して、友だちと関わりを持つ ・他の子と一緒にいても、各々一人で遊ぶ ・生活でのシンプルな言語指示に応じられる ・生活の中の一貫性を基に「良い・悪い」を知り、道徳感や社会性の基準が育まれる ・単語を話す／50語程度のことばを理解する ・バイバイなど簡単なジェスチャーができる <p>1歳</p>	<p>感覚的体験／一貫性を基に学ぶ ・ものを見るようになってくる (刺激の選択・注視・手と目の供応)</p> <p>〈児童生徒の実態〉 概念形成・情動安定のためにも、言語表出の指導・支援、ルーティンと一貫性が必要</p>
<p>0～12か月</p>	<p>12ヶ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指さしで伝えられる ・“ダメ”がわかる ・指さしに応じる ・支援者と同じものに注意を向け、共有する ・自分の名前に反応する <p>0ヶ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物を口に入れて確かめる ・不快な状況で泣く／感情が未分化 <p>社会性の発達の基礎 三項関係</p>	<p>身体により直接的な感覚を基に その場の世界を体験する</p> <p>〈児童生徒の実態〉 感覚刺激を繰り返して遊ぶことが多い</p>

小学部1段階：複数の発達段階グループで構成→発達の幅が大きい